

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者と極め細やかな心の交流を図り、高齢者の抱く疎外感・閉塞感を取り除く生活支援活動や日常の介護を行う。」を理念に掲げている。	家族のように親しみの持てるホーム運営。時には兄弟であり親であり子供であることを実感してもらえる心のふれあいを重視している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「絵に画いた餅」にならぬ様、個々の職員が理念をどのように受けとめて業務にあたっているのかを事ある毎に口話したり新人教育にその意味を教育している。	○ 理念をどうとらえているか、勤続年数の浅い職員を中心に話し合う機会を大切にしている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念と運営が言行一致していくように、「ホームたより」「運営推進会議報告書」を発信することで理解を深めていただくようしている。	「ホームたより」に理念の共有をもちこんだりしている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	1階のティールームには地域の人が休憩等に立ち寄った折、そこで休養している利用者とは話を交わすなど、地域の人に認知症の実態について知っていただく機会にもなっている。	ホームとして町会に入れていただき、町会の役割を微力ながらさせていただけることを大切にしたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議、町会の班長会議を通じてADLの状態に応じた活動に参加する機会を逃さないように心がけている。	

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において、ホームがどのように地域へ貢献していけるのかを重要視して話し合っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>常勤務者全員に外部評価実施に対する理解を得、個々に自己評価してもらった。それを材料に、話し合い事業の改善に向けて取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議の際、2ヶ月間のサービスの実際等を報告書として作成し、それを基に話し合いをしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>本年1月大阪で行われた社会福祉会議に出席された厚生労働省大臣官房審議官が大阪府健康福祉部の方2名と共に当グループホームを見学。短時間であったため、日頃運営していると感じていることや質問等を文書にて伝達でき情報の共有ができて有益であった。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を必要とされる利用者がいたことから、学ぶ機会を得た。この制度には問題点が数々あり、研修へ出向き理解を深める努力をしている。また、運営推進会議の際に制度の疑問点等をとりあげ学び合っている。</p>	○	職員全員へはまだ周知できていない現状である。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>フィジカルロック、ドラッグロックについては完全に排除しているが、スピーチロックについては、時々無意識の中に出てくる職員もあり、尊厳を守ることの意義について、注意喚起を図っている。</p>	○	業務を遂行するあまり、意識無くスピーチロックしている職員への教育の必要性。品性をもったやりとりをしていきたいと考えている。

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に結びつく、つかないに関わらず、知りうる全ての情報を提供するようしている。不安や疑問を解決した上で契約に至っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を表出できるような雰囲気作りを心がけている。発言されたことは介護記録に記録し報告・連絡・相談により管理側も不満や苦情にすぐさま対応できる体制をとっている。	○	業務が職員サイドで先行することが時々あり、利用者が生活の主体であるとの意識的な配慮が必要だと感じている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「ホームたより」を発行することによってホームの生活を知っていただいている。個々に必要な情報は共有できるよう電話・訪問にてお伝えしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議委員に利用者家族が数名あり、運営について意見を聞かせていただき、GH運営に盛りこんで行っている。また、家族が意見、不満、苦情、疑問が表出しやすいよう話をする機会を持つよう心がけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画委員会、処遇検討等で意見を具申できる体制があり、それらの意見を中心に職員会議にて検討実行している。		管理者が生活空間に入り利用者も含め職員の声を聞く姿勢を忘れないようしている。1階にボードを設け、職員からの意見が表出できるように配慮している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト作成で職員の希望を聞き入れたものを作成しているが、法定人員以上の職員シフトで運営することにつながり経済的に苦しい。今後の課題でもある。	○	個々の希望を最低限取り入れた1ヶ月のシフトを作成し、後は勤務に責任をもってあたり利用者に迷惑をかけない様個人交渉等で配慮出来る様育成していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	たとえ職員の異動があっても、かわらぬサービスが提供できるような組織作りをしていきたいと考えている。		

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本人に研修を受ける意志を確認した上で参加する機会を設けている。復命書を書く事で研修で習得したことを全職員に伝達し共有していくよう指導している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東住吉区内のグループホームの管理者が2ヶ月毎に集まって情報交換している。利用者の空床状況の交流、職員には課題持参により他のGHを見学することによって質の相互向上を図っている。</p>	<p>今年度は、個々のホームの介護職員が集まって話し合える機会を年に2回企画している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ティールームにて職員も飲食でき、勤務外の時間に業務でのストレスを話すことによって軽減したり、解決にむけて話し合ったりしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回勤務査定をすることによって各自が向上心を持って、ひいては職員全体が向上していけるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自己解決できるよう支援している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話していただける雰囲気作りを大事にしている。</p>	

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に必要なサービスを利用できるよう資源に結び付けていく努力を怠らない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約に至るまでの間、本人・家族等納得するまでホームに来訪し、生活状況を見学したり質問出来る様開放している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護業務に就いているが、利用者の生き様にふれ人生勉強をしているとの気持ちを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人と共に支えあうためには情報を共有するよう努めている。家族からの申出で散歩や外出することによって、家族内でのつながりを感じ取っている様である。その様子を見るにつけ職員も嬉しく感じている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	全職員がセンター方式によるアセスメントに参加することにより、本人への理解を深める。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切な人間関係を聞きケアマネージャーもそれを大切に受けとめその関係が維持できる様支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が円滑になるよう、職員の働きかけにより協働できるよう支援している。	○	認知症の症状が進むにつれ自分丈を中心にと望むケースがあり、利用者間でトラブルになる事が見られる。ケアマネージャーの傾聴と共感により利用者も人を思いやる気持ちが発露できる様取り組んでいる。

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了されたご家族の方に、運営推進会議委員に依頼し過去の経験より今後の運営について意見をもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーセンドケアを重視して介護にあたっているので個々に応じた意思を尊重している。	○	認知症進行によりナルシズムが過多となり、自己主張が強く利用者間で感情の行きちがいが生じバタフライ現象になりかねない環境がみられる。この現象を静めるコミュニケーションの充実を図っていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会や利用者の折に触れての対話から過去の状況を把握し、認知行動の理解に寄与し、穏やかな心理状態の維持を行う。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活記録を記す事で、一日の暮らしの現状を把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1人に2名の受持ち担当者を配置し、より良く暮らすための課題やケアのあり方を関係者とともに話し合い介護計画につなげている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に1回のモニタリング、6ヶ月毎に介護計画の作成。ADLの急激な変化によりQOLの低下が考えられる場合は計画書の見直しをしている。		

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者お一人に1日、1枚の記録をし情報を共有しながら実践や介護計画の見直しへとつなげている。	○	SOAP記入の徹底
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方も利用できる1階のティールームにて面会していただいたりしている。また、1階に機械浴槽を設置しており、必要に応じて利用できる様配慮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	東住吉区ケアマネ連絡会に所属し、地域資源と協働活動している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前のケアマネージャーとも情報交換をしながら、常に利用者に最善のサービスであるか否かについて話し合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議委員の包括ケアマネージャーや司法書士の方々に相談しながら意識向上を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が信頼している医院や当グループホームの協力医療機関による加療を、当職員・保健師により医師との情報交換を通じて健康管理を行っている。		

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>ターミナルに向けた介護の中で特に、孤独、孤立にさせない様留意し、常にグループホームの家族の中で生活しているのだとの意識を持ってもらう様支援している。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	生活する上で、コミュニケーション技術を駆使し支援していく場面を多く持つことが本音の表出へとつながると考える。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録を継続的にみることで、自立に向けた支援をしている。布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使い分けで日中はオムツ減らしに努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴していただけるよう準備している。足浴を午前中にする等、下肢保温・浮腫軽減・疲労回復を図っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の居室空間を尊重し、むやみやたらに入室しない。入室の際には、許可を得てから入室する等心くばりをしている。	○	現状では個室で休養する方もおられるが大半は夜睡眠する時のみである。昼中は個室で孤立する事に不安を感じるのかフロアーに在住しながら心理的に安心してきている。個室に閉じこもるのではなく自らフロアーに出て来て対話に参加する等、施設側による強制でなく自分の意思で選択して行ける様配慮していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が活き活きとした表情で暮せるよう、提供すべき内容について常に思考錯誤している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパー等散歩途上立ち寄り散髪等近場の理髪店で個人のお金を支払って近隣との交流を図っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿えるよう十分な人員配置により支援している。また、家族の協力を得て、他の利用者も共に戸外へ散歩等の機会を得ている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの年間行事の中で本部である河内長野市へ出かける機会をもっている。また、家族とスムーズに外出できるよう配慮している。そうすることで家族から孤立しているとの感じが深まらない様気をつけている。	○	常に安全を確保した外出を提供したい。

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力的にできなくなり今は本人自ら行うことはなくなっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めない事で、気持ちよく来訪していただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護側の判断で身体拘束はされていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけているが、あくまで安全確保のためであり、「外にいききたい」との意向時には職員が同行している。フロアーから離れられない時は、その理由を説明し暫時待つて頂きその後意向にそって行動している。	○	鍵をかけないケアの実施を試みているが、見守りが十分出来ていない職員配置時には不安を感じている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	出来ている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の身体状況を常に把握し、起こりうる事故防止にむけた話し合いを進めている。ヒヤリハット報告書を検討し、再発防止に取り組んでいる。		

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡網を密にし管理者、保健師、介護主任等の指示による対応をしている。	○	全職員が周知していくためには、繰り返し話し合うことが必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回実施することで、確実に避難できるよう職員の体験蓄積を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との話し合いの中、対応策を模索している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護職員が記録を残すと共に、保健師、管理者にすみやかに報告され、対応につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録には現在服薬中の薬名が記載され、職員一人一人が薬効を理解し正しく服薬する事を守り、服薬後の副作用等症状の変化には観察強化を図っている。	○	服薬によるヒヤリハットが時々ある。ともすれば忘れた頃に間違いがある為、二重三重のチェック体制により防止していく方法をとっている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	保健師の指導の下、職員一同取り組んでいる。食物繊維と緩下剤の利用により排便の適正化を図っている。		軟便が続く時には献立面で消化吸収のよい献立に変化する等適材適所の対応が出来る様連絡を図る。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口臭予防、誤嚥防止に向け、毎食後の口腔内清掃(フロッシング・リッシング・ブラッシング)実施。		歯の状態がかなり悪く、維持が難しいと判断する方については、歯科医師による口腔チェックと歯科衛生士による清掃指導がされている。

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量を日々、記録することで、利用者の状態を知り、それをふまえた支援をしている。		脱水による体調変化をおこす利用者がいる。食事等出来る丈水分補給に留意するも心理的原因からと考えられる食事拒否のケース等、医師との連携により脳梗塞を起こさないよう観察強化している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健師の指導の下感染マニュアルを作成し、感染予防に心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理は管理者、介護主任、食材担当者等複数でチェックしている。また、台所、調理用具等の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ティールームへの出入り口は間口がひろく、自動ドアであるため、入りやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にあった椅子や作業テーブルの配置を行い、共有空間で過ごす時間を多く持つように配慮している。	○	共有空間にて衝突がしばしばあり、配置を替えることで衝突が軽減されればと空間動線も含め考えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、人目を気にすることなく過ごせる場所は限られている。フロアーの中心にテーブルを位置し、くつろげる空間を演出している。	○	フロアーの中心が今以上に”憩いの場”として定着するような働きかけをしていきたい。また、1階ティールーム、4階屋上テラス等で個々に過ごせる様な共有空間の更なる活用について考えていきたい。

ぐるーぷほーむ 泰昌園 (2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が納得されるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置して注意を促しているが、五感を中心に第6感も鋭敏に働かせ高齢者の身体状況に合わせた環境維持に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階ティールーム、4階屋上テラス、3階ユニットと建物内部の移動をすることによって、気分転換となる空間作りをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	センター方式により把握した本人の出来る能力を家事等への導入を図っている。そこから記憶の想起につながり、もっと何か手伝いたいとその幅を拡げ介護計画の意欲の向上へと結びつけている。	○	出来る能力と自分が思い込んでいるが出来ない能力を見定めることで二次障害へ移行する支援になったり自尊心を傷つけ意欲をしぼませてしまう事のない様身体的能力要素と心理的要素をよくみきわめることを今後考えていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階南側、4階屋上テラスに園芸を楽しめるスペースを用意している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ぐるーぷほーむ 泰昌園（2階ユニット）

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

人は必ず老いていく。「みんな違ってみんないい」という言葉どおり、お互いを認め合うことが大切だと考えている。認知症が重度化し共同生活が難しくなりつつも、職員の働きかけにより協働できるよう支援に励んでいる。